

「とうほくプロコン」を通じた 起業家精神の醸成

仙台市 経済局 イノベーション推進部
スタートアップ支援課長 酒井 宏二



1. 仙台市の起業家支援

2011年の東日本大震災以降、「地域のため」や「誰かのため」という利他的マインドを持った人が集まり、東北の復興や地域課題の解決のために起業するという動きが活発化しました。また、東北地域は高齢化、人口減少、都市の消滅可能性といった観点から、全国に先立ち様々な社会課題に直面しております。仙台市は、この現状を「課題解決先進地域」につなげるべくチャンスと捉え、課題解決と経済成長を起業という形で両立しようと東北に集まってきた方々を支援してきました。

2017年からは、社会課題を解決しようという思いを形にして起業につなげたいという方々を支援するため、社会起業家育成プログラム「東北ソーシャル・インパクト・アクセラレーター（SIA）」を実施しています。このプログラムは、東北各地で想いをもって社会課題解決のために立ち上がろうとする方々を応援し、ロールモデルとなるような社会起業家を生み出すことを目的としており、今年で8年目になります。プログラムを通じて、自身の想いを深く見つめなおし、ビジョンやミッションの言語化を行いながら、想いを実現するための持続可能なビジネスプランの実現を支援してまいりました。本プログラムの卒業生は80名を超え、東北の各

地域に根付き、それぞれの地域や分野においてロールモデルとしてご活躍されています。さらに、この方々が中心となって他の社会起業家の創出を支援するという好循環が生まれることで、東北各地にエコシステムの輪が広がり続けています。

また同年、大学の研究成果やICT等を活用し、事業の急成長を志向するスタートアップを支援するプログラムを開始し、これまで90名を超える起業家をご支援してまいりました。

地域経済を持続的に発展させていくためには、課題解決と経済成長を両立しながら、新たなビジネスモデルの構築やイノベーションの創出により、新たな市場の開拓を目指すスタートアップのチャレンジを産学官金が一体となって後押ししていくことが不可欠であると考え、2019年12月には、連続的にスタートアップを生み出す仕組みであるスタートアップ・エコシ



仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会設立

システムの形成を加速させるため、仙台市長を会長とする仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会を設立し、仙台・東北の産学官金が一体となって、支援を推し進めてまいりました。

2024年3月には、せんだい都心再構築プロジェクトの第一号案件であるアーバンネット仙台中央ビルが開業し、同ビル2階にスタートアップのワンストップ支援拠点である仙台スタートアップスタジオを開設しました。「INNOVATOR'S MEETUP」などのイベントを定期的で開催し、スタートアップや起業を目指す皆さん、スタートアップに関わる地域の様々な支援機関、仙台・東北や首都圏の東北にゆかりのある経営者や支援者の皆さんが、気軽に足を運び、情報収集や課題解決ができるきっかけをつくるとともに、挑戦を後押ししています。



仙台スタートアップスタジオ

2.アントレプレナーシップ (起業家精神)の醸成

仙台市では、このようなスタートアップを含む起業に対する支援のほかに、アントレプレナーシップ(起業家精神)の醸成にも力を入れております。アントレプレナーシップとは、起業家や企業経営者だけに必要な特別な能力ではありません。これからの変化の激しい時代に対

応するため、単に知識を習得するのではなく、主体性をもって課題に挑み、他者と協働しながら新しい価値を創造する力を身につけた人材を育成するためのものです。このような力を子どもうちに身につけることが、将来の起業家やスタートアップ人材のすそ野を広げるとともに、予測困難な時代を自らのチャレンジ精神で切り開くことにもつながります。

仙台市では、小学生・中学生向けに課題の発見から資金調達、プロモーション活動、商品販売までを一気通貫で行うことで起業を実際に体験できる起業体験ワークショップや、高校生向けにデザイン思考を活用して社会課題探求に取り組むワークショップを開催しています。

また、大学生・大学院生を対象に、社会起業家のもとにフィールドトリップに出向きながら課題を発見して解決策を発表する実践型プログラム「ソーシャル・イノベーション・アクセラレーター・カレッジ(SIAC)」も実施し、様々な角度から次世代を担う若い人材に対するアントレプレナーシップの醸成を図っております。東北で活動する社会起業家の取り組みを視察・取材する「社会起業家取材レポ」では、2022年の「東北ソーシャル・インパクト・アクセラレーター(SIA)」卒業生でもあるPCN仙台会長の荒木



小学生向け起業体験ワークショップ

さんにご依頼しました。学生たちのインタビューに回答するだけでなく、ロボサバ大会の運営スタッフとして学生を受け入れるなど、社会起業家の活動を近くで学ぶ実践的な場として全面的に協力していただきました。学生からは「貴重な学びの機会を得ることができた」「大人も共に成長する姿を間近にみる事ができた」「子どもたちに様々な体験ができる機会を提供することの重要性を改めて感じた」などの感想が寄せられています。

2023年には「仙台グローバルスタートアップ・キャンパス (SGSC)」をスタートしました。仙台・東北の学生や若者を対象とした、グローバルに活躍する人材を育成するプログラムで、2023年は東北各地から300名の応募があり、ステージ1には110名が参加し、欧米の大学の最先端のアントレプレナーシッププログラムをオンラインで受講しました。また、ステージ2・3には110名からさらに選抜された20名が参加し、ボストン・シリコンバレー派遣の機会を通じて最先端の起業家精神を学び、自らの事業アイデアを磨き上げました。

新たな働き方の選択肢として起業やスタートアップが増えることで、若者の首都圏一極集中の改善や地元での活躍につながると考えており、仙台・東北の持続的成長のため、これから



仙台グローバルスタートアップ・キャンパス (SGSC)

も多くの若者のチャレンジを応援してまいります。

3. 「とうほくプロコン」と起業家育成

前述のとおり、「とうほくプロコン」を開催されている荒木さんには、2022年の「東北ソーシャル・インパクト・アクセラレーター (SIA)」にご参加いただきました。

様々な理由でICT体験機会を喪失している子どもたちが多く存在していることに課題を感じ、「誰一人取り残すことなく、楽しいICT体験を提供する」ことをビジョンとして掲げられ、最終発表会では「東北ソーシャルイノベーション優秀賞(インパクトコース)」を受賞されました。

荒木さんは2019年より小中学生を対象にしたプログラミングコンテスト「みやぎプロコン」を開催されておりましたが、2022年より東北全地域へエリアを拡大し「とうほくプロコン」に名称を変更。アントレプレナーシップ醸成をさらに加速させる非常によい取り組みであることから、2023年からは仙台市も共催という形で参画しております。私も審査員として参加しましたが、会場はすごい熱気で、小中学生の皆さんの堂々とした素晴らしい発表をワクワクしながら拝見しておりました。自分や周りの困りごとを解決するためのアイデアを考え、自



東北ソーシャル・インパクト・アクセラレーター (SIA)

らプログラミングして実際に制作した作品を披露する子どもたちの姿はとても頼もしく、その柔軟な発想力に舌を巻いたり感動したり、工夫を凝らした数々のプレゼンテーションを楽しませていただきました。

「とうほくプロコン」を始めとして、PCN 仙台のこのようなワークショップに参加した子どもが成長し、学生サポーターとして運営を担ったり、本市の「仙台グローバルスタートアップ・キャンパス (SGSC)」に参加されたりというケースも見受けられ、この体験をきっかけに良い循環 (エコシステム) が自然に生まれております。また、SIA の卒業生と連携して、東北各地でワークショップを展開するなど、活動の場所も拡大しており、2024年度は「とうほくぶちプロコン」を初めて開催するなど、現状にとどまらずチャレンジを続けることで、荒木さんが目指すビジョンに一步一步確かに近づいておられることに、傍で応援する私どもとしても心から敬意を表するものであります。

4. 終わりに

仙台市でも人口減少局面が迫る中、社会課題の解決には ICT を始めとしたデジタル技術の活用が不可欠です。社会を変えたいというチャレンジ精神と、その想いを実現するための手段としての ICT 知識の習得を、両輪で体験できる機会である「とうほくプロコン」と協力しながら、次世代のソーシャル・イノベータの創出・育成に今後も努めていきたいと考えております。

「世界中からソーシャル・イノベータが集まる都市・仙台 -Capital of Social Innovation-」の実現を目指して、社会起業家やスタートアップの育成、アントレプレナーシップの醸成にさらに力を入れてまいります。



「とうほくぶちプロコン」作品制作講座 (左右)